

きもの研究家 草柳アキ（石川あき）さんからの寄贈品でつづる

## 「昭和のはじめを駆け抜けた とっておきの一着」展

川島織物文化館 2022年3月1日（火）～2023年1月31日（火）



株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：木村弘一）は、本社に併設の川島織物文化館（京都市左京区）で、「昭和のはじめを駆け抜けた とっておきの一着」展を3月1日（火）より開催、きもの研究家の草柳アキさんがかつてコレクションされた和装品の数々を紹介します。

川島織物セルコンは、創業当時よりモノづくりの参考になる古今東西の珍しい染織品を収集、その多くを川島織物文化館で収蔵し、継承してきました。収蔵品の中には、何かのご縁で寄贈された貴重な品も数多くあり、きもの研究家の草柳アキさん（石川あき/1927-2007）より寄贈を受けた和装品もその一つです。草柳さんは代々続く医師の家に生まれ、自身も帝国女子薬学専門学校（現：大阪医科薬科大学）を卒業しますが、母や祖母の影響で幼年時代から親しんだきもの研究家として活躍されました。そして自身のコレクションの保存と伝承、今後の研究材料にと、1992～2003年にかけて240点余りを川島織物文化館に寄贈いただきました。寄贈品の中核は昭和初期から中期の晴れ着で、色柄は時代性を

色濃く反映しており、和服史上においても伝え残すべき大変貴重なものばかりです。本展では、華やかさの中にモダンさを感じる振袖、今では貴重な丸帯や隠れたオシャレを演出する色あでやかな長襦袢など選りすぐりの逸品を紹介します。

### 開催概要

タイトル：昭和のはじめを駆け抜けた とっておきの一着

会期：2022年3月1日（火）～2023年1月31日（火）

場所：川島織物文化館

（京都市左京区静海市原町 265）

休館日：土・日・祝祭日、夏期、年末年始、  
川島織物セルコン休業日

入館料：無料

※ ご見学は完全事前予約制です。

※ 新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じた上で、運営をしています。ご理解とご協力をお願いいたします。

詳細は ホームページ をご確認ください。

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

■ 主な展示作品



上段左：丸帯「花葵」（まるおび・はなあおい） 1935（昭和10）年頃

上段中：半衿「鱗市松に菊」（はんえり・うろこいちまつにきく） 年代不詳

上段右：三つ身 丸帯「市松に蝶々」（みつみ・まるおび・いちまつにちょうちょう） 昭和初期

下段左：丸帯「亀甲鳳凰」（まるおび・きっこうほうおう） 1935（昭和10）年頃

下段右：振袖「鏡松」（ふりそで・かがみまつ） 1940（昭和15）年頃

メイン写真：四つ身 長襦袢「入子菱に霰」（よつみながじゅばん・いりこびしにあられ） 1935（昭和10）年頃

## ■川島織物文化館 概要

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。

館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のこだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192

京都市左京区静海市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

TEL：075-741-4120

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学希望日の前日 16 時までに電話でお申込みください。

（※月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ご予約専用 TEL：075-741-4323

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

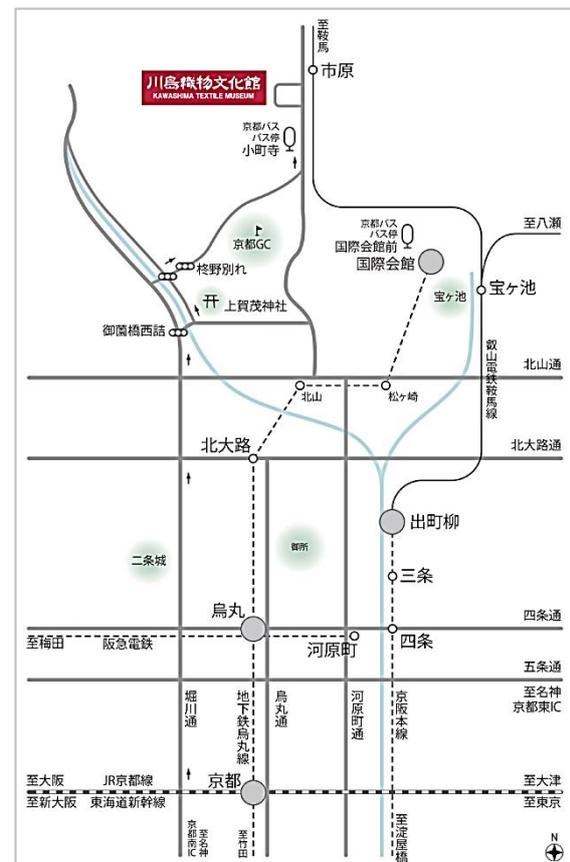
アクセス：●地下鉄「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分



## ■川島織物文化館の運営について

川島織物文化館は、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、咳エチケットの実施などの対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご来館のお客様にもご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。